

## (1) 認知症介護実践研修 標準的カリキュラム(案)

ア 実践者研修 講義・演習36時間(2,160分) 実習:他施設実習1日、職場実習4週間、実習のまとめ1日

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
1 認知症介護の理念					
(1) 認知症介護実践研修のねらい	研修の目的と目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解し、受講の方向性を明確にする。加えて、研修の機会を、研修生のストレス緩和の場、情報交換、ネットワークづくりの場に活用することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修目的・目標の明示。</li> <li>・目的・目標とカリキュラムの関係を明示。</li> <li>・研修の機会を、主体的、積極的に自分の学習の場として活用する意義の明示。</li> </ul>	60分	演習	
(2) 新しい認知症介護の理念の構築	高齢者の能力に応じて自立した生活を保障するために求められる介護理念を、グループワークを通して検討し、自分の言葉で構築することを目指す。その際に、先進的な事例を複数例示し、抽象的にならず具体的に検討することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的介護サービス事業所の理念の提示(2つ以上の複数であること)。</li> <li>・演習を通して他研修生の意見を聴き、自分の介護を振り返る。</li> <li>・介護理念の再構築。</li> </ul>	300分	演習	
(3) 研修の自己課題の設定	「ねらい」「理念の再形成」を元に、研修中の個人の課題設定を行うことで、主体的に研修に参加する態度をうながす。なお、課題は、実習まで含むものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修中の課題設定。</li> <li>・課題を文章として示す。</li> </ul>	60分	演習	
2 認知症高齢者の理解と生活の捉え方					
(1) 医学的理解	認知症という病気と症状の説明で終わるのではなく、医学的理解が認知症介護を行うにあたって必要とされる理由が理解されること。医学面から本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の原因疾患とそれに伴う障害等の内容およびそれらが個人の生活活動に及ぼす影響。</li> <li>・自立支援の中で医学の果たす役割の提示。</li> </ul>	60分	講義	○
(2) 心理的理解	認知症によって高齢者の心理にどのような変化が生じ、それが生活面にどのような影響を与えるかを学び、高齢者の心理面の理解を深めること。高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加齢や老化による心理面への影響と認知症が及ぼす心理面への影響。</li> <li>・それらが個人の生活活動に及ぼす影響。</li> <li>・周囲の対応</li> <li>・環境が個人に及ぼす心理面の影響。</li> <li>・自立支援の中で心理的理解が果たす役割の提示。</li> </ul>	60分	講義	○
(3) 生活の捉え方	「医学的理解」「心理的理解」の講義を元に、認知症という障害を抱える中で自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を講義のみではなく演習を通して理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活障害としての認知症の理解。</li> <li>・個人と認知症との関係の理解。</li> <li>・生活支援の重要性の理解。</li> <li>・演習は120分以上であること。</li> </ul>	120分	講義+演習	○

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(4) 家族の理解・高齢者との関係の理解	家族介護者のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家庭内の様々な問題や課題を理解し、家族への支援の重要性の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者と家族との関係。</li> <li>・認知症が家庭内に与える影響（介護の困難さを含む）。</li> <li>・家族支援の方法と効用。</li> <li>・講義には家族を講師として採用する等の広い人材の登用を考慮すること。</li> </ul>	90分	講義	○
(5) 意思決定支援と権利擁護	認知症により、日常生活の中で制限されてしまう個人の自由や意思決定が、本来どのように保障されるべきかを理解すること。その阻害の例として、虐待、拘束の内容を理解し、人権擁護の具体的な方法の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人の人権の重要性。</li> <li>・自由の尊重と意思決定の尊重。</li> <li>・虐待・拘束の定義と具体的内容。</li> <li>・人権擁護・成年後見制度。</li> </ul>	60分	講義	○
(6) 生活の質の保障とリスクマネジメント	認知症を抱えたことで生じる生活上の困難は、本人の生活の質の低下のみならず、事故の危険性も高めることを知る。従来からのリスクマネジメントは、事故に対する危機管理が中心であったがそれだけではなく、認知症を抱えた個人の生活の質を継続に保証するためのリスクマネジメントのあり方を学ぶこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症が及ぼす事故の危険性の内容。</li> <li>・個人の生活の質の保障の重要性。</li> <li>・認知症介護に求められるリスクマネジメントの目的と内容。</li> <li>・家族の理解を含めたリスクマネジメントの方法。</li> <li>・（前述の講義を受け）安全管理と人権の関係の理解。</li> </ul>	60分	講義	○
(7) 認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援	「医学的理解」から「生活の質の保障とリスクマネジメント」の講義を基に、高齢者が、自分の能力に応じて自立した生活を送るための支援として必要な、認知症介護のアセスメントと生活支援の基本的な考え方の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護現場で、介護理念と個人の介護目標を結びつけることの重要性。</li> <li>・認知症介護におけるアセスメントとケアプラン作成の際の基本的考え方。</li> </ul>	120分	講義	○
(8) 事例演習	上記の講義をうけ、事例（これはモデル事例もしくは研修生からの提出事例を使用する）を用いて、個人への支援にたったアセスメントと生活支援の方法の基本を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例演習による具体的な考え方の体験的理解。</li> <li>・援助方法の展開の体験的理解。</li> </ul>	180分	演習	○
3 認知症高齢者の生活支援の方法					
(1) 援助者の位置づけと人間関係論	高齢者、家族、その他の援助者、地域住民等との対人関係のとおり方を理解し、援助者に求められる位置づけとあり方の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、家族、他の援助者、近隣住民等との関係の持ち方の基本。</li> <li>・援助者の位置付けとあり方。</li> </ul>	90分	講義	
(2) コミュニケーションの本質と方法	高齢者だけではなく、家族や他の援助者等とのコミュニケーションに際して、コミュニケーションの本質（意義・目的とすること）を理解し、その上で実践で活用できる技法の基本を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションをとることの意義と目的。</li> <li>・高齢者とのコミュニケーション技法。</li> <li>・家族とのコミュニケーション技法。</li> <li>・他の援助者とのコミュニケーション技法。</li> </ul>	90分	講義	

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(3) 援助関係を築く演習	「援助者の位置づけと人間関係論」「コミュニケーションの方法」の講義を踏まえた演習を通して、実践で活用できる技術を身につける。	・事例を用いた具体的な援助展開の方法の体験的理解。	120分	演習	
(4) 人的環境と住居環境を考える	高齢者を取りまく人間関係としての人的環境と住まい（自宅、GH、施設など）を中心とした住居環境の理解を深め、二つの環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかける重要性を理解すること。	・人間関係としての人的環境の内容と生活に与える影響。 ・すまいとしての住居環境の内容と生活に与える影響。	120分	講義	○
(5) 地域社会環境を考える	人的環境と住居環境を取り巻く、地域社会、社会制度などの地域社会環境の理解を深め、その環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかけることの重要性を理解すること。	・地域社会環境の内容。 ・生活に与える影響。 ・地域社会環境との関係の取り方。	120分	講義	○
(6) 生活環境を考える演習	上記2講義を踏まえて、事例を通して具体的に介護における環境のあり方の理解を深め、環境への関わり方を考えること。	・事例を用いた体験的理解 ・環境への関わり方の具体的な方法の検討。 ・家族の位置付けは、家族支援の視点も含めること。	120分	演習	○
(7) 生活支援の方法	「認知症高齢者の生活支援の方法」の教科のまとめとして、高齢者が、様々な人的・物的・社会的環境の中で生活していくことを、どのように支援していくべきかを理解し、事例演習を通してその方法を考えること。	・日常的な生活支援のあり方。 ・その援助方法・環境調整、地域資源の活用の重要性。 ・事例を用いた体験的理解と具体的な方法の検討。 ・家族の位置付けは、家族支援の視点も含めること。 ・演習は120分以上であること。	90分	講義＋演習	○
4 実習					
(1) 実習課題設定	本研修の目的に基づき、「研修の自己課題」の内容と、講義演習の受講を踏まえ、研修成果を実践で活用できる知識・技術にするための実習課題を設定すること。	・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標の設定。 ・他施設の見学実習、職場実習の目標設定に際しての、実習展開例（別に添付）を提示すること。 ・本研修目的に沿っていること。	240分	演習	
(2) 実習1：外部実習	他の介護保険事業場への1日の見学実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	・実習課題に沿った実習の展開。 ・研修目的に沿っていること。	1日	実習	
(3) 実習2：職場実習	職場での4週間の実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	・実習課題に沿った実習の展開。 ・研修目的に沿っていること。	4週間	実習	

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(4)実習結果報告とまとめ	実習が設定した課題に沿って実施できたかを各自で振り返り、報告し、実習課題がどの程度達成できたかを評価すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題に沿った実習展開の結果を整理し報告する。</li> <li>・研修全体の自己評価の実施。</li> <li>・他研修生の自己評価の確認。</li> </ul>	1日	演習	

イ 実践リーダー研修 講義・演習57時間(3,420分) 実習：他施設実習3日以上、職場実習4週間、実習のまとめ1日

教科名	目的	内容	時間数	区分
1 認知症介護の理念				
(1)研修のねらい	研修の目的と目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解し、研修の方向性を明確にする。加えて、研修の機会を、研修生のストレス緩和の場、情報交換、ネットワークづくりの場に活用することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修目的</li> <li>・目標の明示。</li> <li>・目的・目標とカリキュラムの関係を明示。</li> <li>・研修の機会を、主体的、積極的に自分の学習の場として活用する意義の明示。</li> </ul>	60分	演習
(2)生活支援のための認知症介護のあり方	職場の介護理念を振り返る前に、認知症介護において今後ともめられる「能力に応じ自立した生活」を支援するための痴呆介護のあり方を、具体的な取り組みを行っている事例を用いて学ぶことで、具体的なイメージを持つこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険法に基づいた自立支援のあり方。</li> <li>・地域ケアのあり方。</li> <li>・具体的事例の提示(2つ以上であること)。</li> <li>・事例を用いた演習。</li> <li>・演習は60分以上であること。</li> </ul>	120分	講義＋演習
(3)介護現場の介護理念の構築	「生活支援のための認知症介護のあり方」を踏まえて、自分の職場の理念を振り返り、新しい認知症介護理念の構築を行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の職場の理念の振り返り。</li> <li>・新しい理念の構築。</li> <li>・これらを演習を通して行う。</li> </ul>	180分	演習
(4)介護現場の認知症介護のあり方に関するアセスメント	「生活支援のための認知症介護のあり方」「介護現場の介護理念の構築」講義、演習を踏まえ、自分の職場の認知症介護に関するアセスメントを演習を通して行い、職場における認知症介護に関する課題を明らかにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の職場のアセスメントを演習を通して行う。</li> <li>・自分の職場の課題と改善点を明らかにする。</li> </ul>	180分	演習
(5)研修参加中の自己課題の設定	上記4つの講義、演習を踏まえて、研修中の個人の課題設定を行うことで、主体的に研修に参加する態度をうながす。なお、課題は、実習まで含むものとする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修中の課題設定。</li> <li>・課題を文章として示す。</li> </ul>	60分	演習
2 認知症介護のための組織論				
(1)実践リーダーの役割と視点	介護現場の実践リーダーとして、介護理念を介護現場で具体化していくために、実践リーダーが担う役割と、実践リーダーがそのために身につけるべき考え方としての視点を明らかにすること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームケアのあり方。</li> <li>・実践リーダーとしての自己理解と役割の理解。</li> <li>・他スタッフと関係の持ち方。</li> <li>・演習より講義内容を深める。</li> <li>・演習は60分以上であること。</li> </ul>	120分	講義＋演習
(2)サービス展開のためのリスクマネジメント	実践リーダーの役割として、虐待、拘束、人権擁護の内容とその対応を理解するとともに、認知症により日常場面で生じる高齢者の抱えるリスクを理解し、認知症介護を展開する際に、リスクマネジメントを具体的に展開していく技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拘束、虐待の定義と具体的内容。</li> <li>・その対応方法。</li> <li>・人権擁護の内容。</li> <li>・成年後見制度の内容と活用。</li> <li>・自由の保障と安全管理の関係。</li> <li>・認知症が生活場面に及ぼすリスクについて</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的対応方法の体験的理解。</li> <li>・演習は90分以上とする。</li> </ul>	180分	講義＋演習

教科名	目的	内容	時間数	区分
(3)高齢者支援のための家族支援の方策	実践リーダーの役割として、家族をどのように理解し、介護や支援を展開することが求められるかを理解し、家族支援できる技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の理解。</li> <li>・高齢者と家族との関係の理解。</li> <li>・自立支援のための家族の位置づけの理解。</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的援助技法の体験的理解。</li> <li>・演習は90分以上とする。</li> </ul>	180分	講義＋演習
(4)介護現場の環境を整える方策	実践リーダーの立場から、組織内の対人関係と介護の質を維持向上させるため、介護の質を維持向上させるための職員のメンタルヘルスやストレスマネジメントの内容と方法を理解し、実践できる技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員間の人間関係。</li> <li>・職場内のストレス。</li> <li>・職場のメンタルヘルス。</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的な援助方法の体験的理解。</li> <li>・演習は90分以上とする。</li> </ul>	180分	講義＋演習
(5)地域資源の活用と展開	実践リーダーの役割として、高齢者の能力に応じた生活を支援するために必要な地域資源（公的、非公的両方の地域資源）の内容と連携する方法を理解し、支援できる技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的、非公的の地域資源の内容。</li> <li>・地域資源との連携の方法。</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的対応方法の体験的理解。</li> <li>・演習は90分以上とする。</li> </ul>	180分	講義＋演習
3 人材育成のための技法				
(1)人材育成の考え方	積極的に人材育成に取り組んでいる具体的事例を用いながら、人材育成の目的やねらい、方法、工夫点、課題を理解し、人材育成の重要性を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例の提示。</li> <li>・具体例を通しての目的やねらい、方法、工夫点の提示。</li> <li>・人材育成の重要性と課題。</li> </ul>	90分	講義
(2)効果的なケースカンファレンスの持ち方	実践リーダーとして、職員の意欲や動機付けを高める効果的なケースカンファレンスの持ち方の方法を学び、具体的な展開できる技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケースカンファレンスの内容。</li> <li>・事例提示の方法。</li> <li>・ケースカンファレンスの進め方。</li> <li>・演習による具体的な展開方法の体験的理解。</li> <li>・演習は120分以上とする。</li> </ul>	240分	講義＋演習
(3)スーパービジョンとコーチング	人材育成の方法であるスーパービジョンとコーチングの内容を理解し、実践できる技能を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパービジョンの内容と方法。</li> <li>・コーチングの内容と方法。</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的な技法の体験的理解。</li> <li>・演習は120分以上とする。</li> </ul>	300分	講義＋演習

教科名	目的	内容	時間数	区分
(4)人材育成の企画立案と伝達・表現技法	人材育成の方法として、職場を中心に人材教育や研修を行うに際して、必要となる教育研修カリキュラムの企画立案の方法と講義・演習・指導等を行う際の伝達表・現の技法の基本を理解し、実際に展開する際の留意点を学ぶこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修カリキュラムの企画立案の方法。</li> <li>・講義・演習・指導等の方法。</li> <li>・効果的な企画立案、講義・演習・指導等の意義と重要性。</li> <li>・演習による講義内容の理解と具体的方法の体験的理解。</li> <li>・演習は60分以上とする。</li> </ul>	180分	講義＋演習
(5)事例演習1	本教科「人材育成のための技法」の各単元を踏まえて、教科のまとめとして事例を用いて、介護現場で活用できるための実践的な方法を身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成、チームケアを具体的に検討し、各単元の理解を体験的に深めることができる事例の提示。</li> <li>・2事例実施。</li> <li>・1事例は居宅事例であること。</li> </ul>	180分	演習
(6)事例演習2			180分	演習
4 チームケアのための事例演習				
(1)事例演習展開のための講義	「組織論」「人材育成」の教科を踏まえて、認知症介護のアセスメントとケアの基本的な考え方と方法を事例演習を通して身につけること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症介護のアセスメントとケアの基本的考え方。</li> <li>・チームケアの中で、実践リーダーの果たす役割。</li> <li>・チームケアを具体的に検討し、理解を体験的に深めることの出来る事例の提示。</li> <li>・2事例を実施。</li> <li>・1事例は居宅事例であること。</li> </ul>	90分	講義
(2)事例演習1			300分	演習
(3)事例演習2			300分	演習
5 実習				
(1)実習課題設定	本研修の目的に基づき、「研修の自己課題」の内容と、講義演習の受講を踏まえ、研修成果を実践で活用できる知識・技術にするための実習課題を設定すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標の設定。</li> <li>・他施設の見学実習、職場実習の目標設定に際しての、実習展開例（別に添付）を提示すること。</li> <li>・本研修目的に沿っていること。</li> </ul>	120分	演習
(2)実習1：外部実習	他の介護保険事業場への3日以上の実験実習を通して、自己の設定した課題を達成し、その成果を得ること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題に沿った実習の展開。</li> <li>・研修目的に沿っていること。</li> </ul>	3日以上	実習
(3)実習2：職場実習	職場での4週間の実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題に沿った実習の展開。</li> <li>・研修目的に沿っていること。</li> </ul>	4時間	実習
(4)実習結果報告を通してのまとめ	実習が設定した課題に沿って実施できたかを各自で振り返り、報告し、実習課題がどの程度達成できたかを評価すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習課題に沿った実習展開の結果を整理し報告する。</li> <li>・研修全体の自己評価の実施。</li> <li>・他研修生の自己評価の確認。</li> </ul>	1日	演習

## 認知症介護研修事業実施要綱（認知症介護実践研修部分の素案）

1～3 一略一

## 4 事業内容

## (1) 認知症介護実践研修

## ① 研修対象者

介護保険施設・事業者等に従事する介護職員等であって、実施主体の長が適当と認めた者とする。

## ② 実施内容

研修対象者に対して、認知症介護に関する実践的な知識及び技術を修得するための研修を実施する。

## ③ 実習施設

介護保険施設・事業者等の有する施設であって、実施主体の長が適切に研修を行うことができるものと認められるもの

## ④ 受講の手續等

ア 受講の手續は、所属の介護保険施設・事業者等の長を通じて実施主体の長に申し出るものとする。

イ 実施主体の長は、受講の申込みに基づき、受講者を決定し、研修生として登録する。

## ⑤ 修了証書の交付等

ア 実施主体の長は、研修修了者に対し、別途定める様式に準じ修了証書を交付するものとする。

イ 実施主体の長は、研修修了者について、修了証書番号、修了年月日、氏名、生年月日等必要事項を記載した名簿を作成し管理する。

## ⑥ 実施上の留意事項

ア 実施主体は、認知症介護指導者養成研修修了者の協力のもとに研修カリキュラムを策定し、事業に必要な講師を確保するとともに、研修参加者の受け入れ準備等実施について必要な事項を定め円滑な運営を図るものとする。

イ 研修参加者は、研修の実施に必要な費用のうち、教材等にかかる実費相当分について負担するものとする。

ウ 本事業の一部を受託して実施する介護保険施設・事業者等は、本事業にかかる経理と他の事業にかかる経理とを明確に区分するものとする。

一以下略一



○ 認知症高齢者グループホーム管理者研修 標準的カリキュラム (案)  
・ 講義・演習 29時間 (1,740分)

教科名	目的	内容	時間数	区分
1 認知症高齢者の理解と生活の捉え方				
(1) 医学的理解	認知症という病気と症状の説明で終わるのではなく、医学的理解が認知症介護を行うにあたって必要とされる理由が理解されること。医学面から本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解をを深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の原因疾患とそれに伴う障害等の内容およびそれらが個人の生活活動に及ぼす影響。</li> <li>・ 自立支援の中で医学の果たす役割の提示。</li> </ul>	60分	講義
(2) 心理的理解	認知症によって高齢者の心理にどのような変化が生じ、それが生活面にどのような影響を与えるかを学び、高齢者の心理面の理解を深めること。高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 加齢や老化による心理面への影響と認知症が及ぼす心理面への影響。</li> <li>・ それらが個人の生活活動に及ぼす影響。</li> <li>・ 周囲の対応</li> <li>・ 環境が個人に及ぼす心理面の影響。</li> <li>・ 自立支援の中で心理的理解が果たす役割の提示。</li> </ul>	60分	講義
(3) 生活の捉え方	「医学的理解」「心理的理解」の講義を元に、認知症という障害を抱える中で自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を講義のみではなく演習を通して理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活障害としての認知症の理解。</li> <li>・ 個人と認知症との関係の理解。</li> <li>・ 生活支援の重要性の理解。</li> <li>・ 演習は120分以上であること。</li> </ul>	120分	講義＋演習
(4) 家族の理解・高齢者との関係の理解	家族介護者のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家庭内の様々な問題や課題を理解し、家族への支援の重要性の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高齢者と家族との関係。</li> <li>・ 認知症が家庭内に与える影響（介護の困難さを含む）。</li> <li>・ 家族支援の方法と効用。</li> <li>・ 講義には家族を講師として採用する等の広い人材の登用を考慮すること。</li> </ul>	90分	講義
(5) 意思決定支援と権利擁護	認知症により、日常生活の中で制限されてしまう個人の自由や意思決定が、本来どのように保障されるべきかを理解すること。その阻害の例として、虐待、拘束の内容を理解し、人権擁護の具体的な方法の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個人の人権の重要性。</li> <li>・ 自由の尊重と意思決定の尊重。</li> <li>・ 虐待・拘束の定義と具体的内容。</li> <li>・ 人権擁護・成年後見制度。</li> </ul>	60分	講義
(6) 生活の質の保障とリスクマネジメント	認知症を抱えたことで生じる生活上の困難は、本人の生活の質の低下のみならず、事故の危険性も高めることを知る。従来リスクマネジメントは、事故に対する危機管理が中心であったがそれだけではなく、認知症を抱えた個人の生活の質を継続に保証するためのリスクマネジメントのあり方を学ぶこと。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症が及ぼす事故の危険性の内容。</li> <li>・ 個人の生活の質の保障の重要性。</li> <li>・ 認知症介護に求められるリスクマネジメントの目的と内容。</li> <li>・ 家族の理解を含めたリスクマネジメントの方法。</li> <li>・ (前述の講義を受け) 安全管理と人権の関係の理解。</li> </ul>	60分	講義

教科名	目的	内容	時間数	区分
(7) 認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援	「医学的理解」から「生活の質の保障とリスクマネジメント」の講義を基に、高齢者が、自分の能力に応じて自立した生活を送るための支援として必要な、認知症介護のアセスメントと生活支援の基本的な考え方の理解を深めること。	・介護現場で、介護理念と個人の介護目標を結びつけることの重要性。 ・認知症介護におけるアセスメントとケアプラン作成の際の基本的考え方。	120分	講義
(8) 事例演習	上記の講義をうけ、事例（これはモデル事例もしくは研修生からの提出事例を使用する）を用いて、個人への支援にたったアセスメントと生活支援の方法の基本を理解すること。	・事例演習による具体的な考え方の体験的理解。 ・援助方法の展開の体験的理解。	180分	演習
2 認知症高齢者の生活支援の方法				
(1) 人的環境と住居環境を考える	高齢者を取りまく人間関係としての人的環境と住まい（自宅、GH、施設など）を中心とした住居環境の理解を深め、二つの環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかける重要性を理解すること。	・人間関係としての人的環境の内容と生活に与える影響。 ・すまいとしての住居環境の内容と生活に与える影響。	120分	講義
(2) 地域社会環境を考える	人的環境と住居環境を取り巻く、地域社会、社会制度などの地域社会環境の理解を深め、その環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかえることの重要性を理解すること。	・地域社会環境の内容。 ・生活に与える影響。 ・地域社会環境との関係の取り方。	120分	講義
(3) 生活環境を考える演習	上記2講義を踏まえて、事例を通して具体的に介護における環境のあり方の理解を深め、環境への関わり方を考えること。	・事例を用いた体験的理解 ・環境への関わり方の具体的な方法の検討。 ・家族の位置付けは、家族支援の視点も含めること。	120分	演習
(4) 生活支援の方法	「認知症高齢者の生活支援の方法」の教科のまとめとして、高齢者が、様々な人的・物的・社会的環境の中で生活していくことを、どのように支援していくべきかを理解し、事例演習を通してその方法を考えること。	・日常的な生活支援のあり方。 ・その援助方法・環境調整、地域資源の活用の重要性。 ・事例を用いた体験的理解と具体的な方法の検討。 ・家族の位置付けは、家族支援の視点も含めること。 ・演習は120分以上であること。	90分	講義＋演習
3 グループホームの管理運営	グループホームを運営していく上で、管理者としての役割、環境整備、リスクマネジメント、職員の研修体制など、統括的にグループホームを管理運営していくための知識・技術を修得する。	・利用者家族・地域・医療との関わり ・日常生活の支援 ・アセスメントとケアプランの基本的考え方 ・ケース会議・職員ミーティング ・記録の重要性 ・退去時における対応 ・開設後の環境整備 ・リスクマネジメント ・サービスの質の評価 ・開所後の研修 ・利用者の権利擁護 等	540分	講義

「認知症介護実践研修(実践者研修)」及び「認知症高齢者グループホーム管理者研修」関係図

